

農政改革特命チーム第11回会合 議事概要

1. 日 時：平成21年4月22日（水）17:00～18:20
2. 場 所：三番町会議所大会議室
3. 概 要：今後の進め方、米政策に関するシミュレーション結果（第1次）について

（今後の進め方（案）について、針原総括審議官より説明）

○迫田財務省主計局総務課長

- ・今回取りまとめた各項目について議論を進めることになるのか。

○針原チーム長（農林水産省総括審議官）

- ・検討項目を洗い出したことから、いきなり各論から議論に入るのではなく、総論を議論した上で各論に進んでいきたいと考えている。

（「米施策に関するシミュレーション結果（第1次）について」農林水産省経済分析チームの平形参事官、木村企画官より説明）

○鈴木委員

- ・大変精緻なモデルを作られていて、分析チームの努力に敬意を表する。
- ・この試算をベースにして幅広い議論ができる。このように数字を基にして国民的に議論をしようとすることは画期的なことであり、評価されるべき。
- ・今回は、価格や量についての試算ということであるが、政策としての評価を行うためには、額としての評価が必要。すなわち、国民全体の利益や消費者の利益、生産者の利益についてや財政負担についても、どのように変化するのかを試算し、政策を総合的に議論・評価するための指標を揃えることが必要ではないか。
- ・米価が下落すれば、現在のタイプのナラシ（収入減少影響緩和対策）では、生産者への影響は数年後には緩和されなくなる。これまでのヒアリングでも、非常に多くの方から、米価の下落に対する対策が必要との意見が出されたところであり、所得の下支え機能をどう考えるのか、生産者の所得を確保するためにどのような付加的な施策を講じるべきかという点についても、御検討いただきたい。

○針原チーム長

- ・国民全体の便益という観点で試算が可能かどうか、また、他の要素を入れた場合のシミュレーションが可能かどうか、感触を含めて教えていただきたい。

○末松農林水産省大臣官房政策課長

- ・御指摘のような検討を行うに当たっては、起こりうる全てのケースを想定するのは難しいことから、どこに焦点を当ててシミュレーションを行うのかを検討していく必要がある。消費者や生産者の利益については指標化する方法を検討していきたい。
- ・所得の下支えや財政負担についても検討することが必要だが、施策のパターンは色々と考えられるので、財政負担だけでなく、施策をどのように組み合わせていくの

かについても検討していく必要がある。

○平形農林水産省大臣官房参事官

- ・今回は、それぞれのシナリオとそれを具体化する施策が必ずしも1対1で対応しないため、財政負担を示していないが、御指摘を踏まえ、どのような方法が可能なのか、今後検討していきたい。

○梅溪内閣府大臣官房審議官

- ・今回のシミュレーションで用いられているモデルを需要量や生産量等の過去の実績に当てはめてみた場合、どの程度フィットしているのか。
- ・弾性値の置き方により、結果は大きく変わってくると考えられるが、需要の価格弾性値を変えた場合に、結果はどのくらい変わるのか。検証していれば、教えていただきたい。
- ・規模階層別に農地面積を割り振り、階層間の農地移動はないという前提で予測が行われているが、今後、大規模な経営が増え、このような担い手が中心となっていくようなメカニズムを織り込むようにさらに検討していくべきではないか。

○木村農林水産省大臣官房政策課企画官

- ・このモデルが過去の実績を説明しているかという点については、主な変数について過去10年間の実績と再現値を比較したところ、誤差はおおむね5%以内であった。また、関数についても、過去の実績に当てはめて適合性の高いものを使用している。
- ・弾性値を変えた場合に、予測結果がどのくらい変わるのかという点については、定量的な分析は行っていないが、需要の価格弾性値が低くなれば、価格変動は予測値よりも大きくなると考えられる。
- ・階層間での農地の移動については、今後の検討課題であると考えている。しかし、御指摘のようなメカニズムを今回のような米の需給モデルに組み込んだモデルは承知していない。

○針原チーム長

- ・規模拡大の政策をモデルに入れる場合には、かなり恣意的な前提を置かなければならない可能性がある。
- ・規模拡大は緩やかに進んでおり、全体に大きな影響を与えるようなペースでは進んでいない。このこと自体が極めて重要な課題であることから、次のシミュレーションに向けて議論していきたい。

○横島経済産業省経済産業課課長補佐

- ・それぞれのシナリオを見ると、価格が下がると生産量が増えていくという関係にあるが、米を作る産業が何兆円産業であるかということ市場価格と生産量を掛けて計算すると、生産調整強化のシナリオが一番大きく、生産調整廃止のシナリオが一番小さくなる。このシミュレーションでは、生産調整を緩和・廃止すれば、産業全体の規模が縮小してしまうということを表しているのか。

○平形参事官

- ・生産額は、価格（P）×生産量（Q）で計算されるが、農業として、また農家にとって重要なのは、 $P \times Q - C$ （生産コスト）で計算される「農業所得」であり、生産額が高いことがすなわち産業が活性化することにはならない。産業としての持続可能性を考えるのであれば、コストがどうなるかについても考えていかなければならない。

○鈴木委員

- ・社会全体としての利益やどれだけ財政負担がかかるかも含めて考えなければならぬ。価格が下がることによって消費者にメリットが増えることになり、そういう観点からの検討も必要である。

○大内内閣官房参事官

- ・資料（ヨコ資料P7）にあるように、これまで財政負担で在庫を調整することにより価格の維持を図ってきており、このような在庫や備蓄の水準がシミュレーションの結果に影響すると考えるが、これらについてどのような前提を置いているのか。
- ・生産調整の問題を考える場合、輸入が途絶するなどのいざという時の供給余力が転作田によって維持されているという側面も重要であると考えますが、このシミュレーションではどう考慮されているのか。

○木村企画官

- ・動学的モデルにおいては、期末在庫は翌年にすべて供給されると仮定している。政府備蓄の運営も米の需給に大きな影響を与えられらるが、今回のシミュレーションでは考慮していない。
- ・供給余力は、いざという時に使える農地面積がどの程度確保されているかということであると考えられるが、このシミュレーションでは、米の作付面積は予測されるものの、転作作物を含めた水田面積全体がどうなるかは予測できない。これを予測するには転作作物のシミュレーションが必要であるが、これについては今後の検討課題と考える。

○針原チーム長

- ・色々な御意見をいただいたが、今後、一般からの意見募集も行う予定である。このシミュレーションは政策論議の入り口の入り口であり、いただいた御意見の取り扱いについては、事務方の作業時間もあるが、今後このチームで検討していきたい。

○迫田課長

- ・シミュレーション自体は精緻にできており、インプリケーションとしては参考になると思うが、このモデルには資料（ヨコ資料P6）にあるような前提があり、やはり限界があるのではないかと思う。
- ・生産サイドの構造をほとんど変えていないが、政策的な働きかけにより農地の集積が進むことも考えれば、このようなシミュレーションをどんなに注意深く行っても我々行政が判断を行うための指標として用いるには限界があると思う。そうした限

界を頭に入れた上で数字を取り扱う必要がある。

- ・例えば、生産調整が廃止されたからといって、その翌年に一気に 60 万 ha も本当に作付が増えるのだろうか。こうしたことを考えても、このシミュレーションが起こりうる世の中の事象を現実可能性をもって表しているのか疑問である。このような分析が内包しているシミュレーション自身の限界を認識する必要がある。

○鈴木委員

- ・このシミュレーションは、検討のひとつの要素であって、農業経営が伸びていく環境や戦略的な農業所得の確保のためのセーフティネットの構築、農業の持つ多様な価値への対応といったものをセットとして、大きな施策体系を念頭に置いて検討する必要がある。

○梅溪内閣府大臣官房審議官

- ・65歳以上の生産者が10年後も生産を続けるのは困難と見込まれ、このような高齢化の影響について、このシミュレーションに織り込むことは可能か。

○木村企画官

- ・供給関数については、高齢化による影響は勘案していないが、需要に関しては、高齢化等の人口構成の変化をトレンドとして考慮している。
- ・先ほどチーム長からの指摘があったように、担い手や農地等の構造的な要素を入れることにより、モデルが恣意的なものにならざるを得ない点に留意する必要があるが、今後検討を行っていきたい。

○鈴木総務省企画課長

- ・モデルでは、代替財として小麦が考慮されているが、米粉などの主食用でない米についても考慮されているのか。
- ・今回のシミュレーション結果と、タイ産米などの国際的な米の価格との関係についてはどう考えるか。国際マーケットとの関係は考慮されているのか。
- ・シミュレーションで予測される米価で生産を続けていくためには、規模の拡大が必要であるが、作付面積規模階層別の生産コストには、どの程度の差があるのか。

○木村企画官

- ・加工用については、主食用米に比べてマーケットが小さいので、今回のシミュレーションでは考慮していないが、米粉や飼料用米等の主食用米以外のマーケットが今後大きくなってくれば、それも考慮する必要があると考える。

○平形参事官

- ・国際市場との関係を考える際には、関税等も考慮しなければならないが、今回のシミュレーションでは、生産調整の影響を予測するという点で、コメの輸出入に関しては考慮していない。
- ・規模階層別の生産コストは、規模が大きくなるほど減少する傾向にあるが、19年産の場合には、10～15haの階層で60kg当たり9,575円となっている一方で、15ha

以上では 9,681 円と逆転しており、このあたりの規模で規模拡大の効果が限界になると考えられる。

○針原チーム長

- ・ 今後、暫くの間は農林水産省において具体的な内容について検討を進め、6 月の上半旬に特命チームでの検討を再開したいと考えている。

(以 上)